

2024年4月25日

2023年度 第三者評価を受けて(語り支える会の立場から)

北星学園大学附属高等学校
教育を語り支える会
事務局長 鶴田恵子

はじめに

2023年度から、全校生徒が集まることができ従来の入学礼拝、修学旅行(道外の研修旅行)も行えました。昨年も書きましたが、開校60周年の記念事業としての多目的に使用できる人工芝総合グラウンドを、学校法人の北星学園が全面的に支えて整備して下さったことで、通常の体育の授業や学校祭、体育大会などでも有効に活用できています。また、外部の少年サッカーチームなどに貸し出しを行うことができ、地域の活性化にも貢献できていると思います。物価の上昇、特に燃料費の高騰により、その負担が生徒、保護者の負担増にならぬように、教職員の皆様が努力されていることを聞いております。逆境にあっても果敢に前を向いて歩む学校と生徒・保護者の皆様へ大きな拍手を送りたいと思います。

第三者評価を受けて

1. 本組織は主として北星学園大学附属高校の教育の充実に貢献するために、卒業生の保護者OB、OGキリスト教会関係者、退職教員、近隣住民、施設職員などによって組織されています。この度、第三者評価を受けて、北星学園大学附属高校が大切にしてきた「共育」(生徒も保護者も教職員も、共に育む、育つ)という視点から述べさせていただきます。本組織が行ってきた活動は、人が集まって会食をして研修や交流をすることが多いため、コロナ禍によって停滞しております。しかし、ホームページやSNS、機関誌を通して、学校の様子を見聞きして応援してきました。また、受験を考えている中学生の保護者には、私たちの立場から感じているこの学校の特色や魅力を伝えてきました。
2. 2023年度、卒業生、一人ひとりはとても満足して卒業のイベントに参加していたことを拝見しました。コロナ禍で思うように活動ができなかった中、教職員が目の前にいる生徒達ひとりひとりを大事にしてこられたことが、満足度に繋がっていたのではないかと感じました。これらの日常の活動が、安定した入学定員獲得に繋がっていると思います。
3. 私たちの世代はアナログ世代で、ICT技術の革新や、SNSの発展、DXといった時代の変化には、ついていけない点があります。しかし、時代を見据えて、生徒たちが未来に生きていくために必要な能力を身に付けさせるために、率先して情報収集を行って推し進めていることを思います。
4. 生徒への「アンケート」を多用して、様々な角度から生徒の声を受け止め、自立していけるように支援したいと考えておられることが分かります。細やかな対応が求められるほど、教員の負担は重くなりますが、引き続き、校長をはじめとしたチームワークを強めて連携していく方向性を期待しています。
5. 地域のクリーン活動、フィリピンの島の学校支援、石川県能登半島地震の義援金など、生徒が自主的に地域と関わりをもち貢献しようとしたことも、共に生きるという教育目標の達成として評価できます。
6. 英語の少人数展開授業の実施などを通して、英語力の向上に力を入れています。語学力は向上したものの北星学園大学の文学部英文学科に進学する生徒が少なくなっており、道外の他大学に進学する生徒が多いことは気になります。生徒の自由な意志を尊重している結果だと思っておりますが、中等教育のみならず、大学が

らも高大連携の意識を強化して欲しいものです。

7. 国公立大学や難関私立大学に合格する生徒が増えていることも特徴的です。こうしたノウハウは継続して欲しいものです。
8. 基本理念である「共育」を大切にして、他者や隣人との関りの中で、新しい教育を推進されることを望み引き続き、一歩、二歩、離れた立場から「教育を語り支える会」として、サポートしていきたいと思えます。